

まちづくり基本方針改定の方向性（案）

1 改定する兵庫県長期ビジョン（新全县ビジョン）との整合

- 目標年次：2050年の兵庫の未来を展望し、2030年に向けた取組の方向性を明示
- 「将来構想試案」（2021年2月）で提示された6つの柱・39のシナリオを踏まえ、まちづくり分野（主に日常生活空間の形成に関するハード、それに付随するソフト）における方向性を検討

2 基本方針の位置付け

- 兵庫県長期ビジョンのまちづくり分野における基本的な方針
- 県都市計画区域マスタープラン、県住生活基本計画などの上位・関連方針

兵庫県長期ビジョンのまちづくり分野における基本的な方針であり、県の様々なまちづくりに関する方針や計画との関連を明示

Ex. 多自然地域の集落群や地方都市における日常生活に必要な都市機能の維持確保に向けた地域連携型都市構造^{*}の考え方を、まちづくりの取組の方向性にて明示

3 改定の主なポイント

- ・ 前回の改定から8年経過し社会情勢も大きく変化
- ・ まちの将来像や取組方向を共有する兵庫県長期ビジョンが改定予定（2022年3月）上記を踏まえ、今の時代にふさわしい方針として見直しを検討する。

(1) 地域設定

[現方針] 多様な地域を持つ兵庫県の特性を踏まえた4つの地域を設定

（①多自然地域の集落群、②地方都市、③郊外住宅地、④都市中心部）

⇒ 引き続き、同様の4つの地域を設定

ただし、これまでの4つの地域では、県民が自分の住む地域や関係する地域を具体的にイメージしづらいため、ひょうご5国（摂津、播磨、但馬、丹波、淡路）それぞれ地域の個性を踏まえた主な取組方向も提示

(2) テーマ設定

[現方針] 4つのテーマ（①安全・安心、②環境との共生、③魅力と活力、④自立と連携）

⇒ 引き続き、同様の4つのテーマを設定

(3) 指標の設定

まちづくりの進捗度合いを測る指標を設定

現方針では、各市町がそれぞれの指標を設定するために参考となる「まちづくり指標集」を提示したが、県全体で把握できる指標としていなかったことや市町による指標の活用につながっていないことから、把握しやすい指標やフォローアップの手法を検討する必要がある。

(4) 地域ごとの特徴あるまちづくりの推進

ひょうご5国それぞれ地域の個性を踏まえたまちづくりの取組方向を提示

(5) 2050年のまちの将来像を県民と共有

都市機能の集積や役割分担、地域を結ぶ交通ネットワークの構築など、誰もが安心して住み続けられるまち、持続可能なまちの形成に向けた都市構造のあり方を明示し、県民が主役としてまちづくりを推進していくためのビジョンを共有